



引き取りは、センターに直接持ち込む場合と、定点引き取りの場合と大きく2つに分けられ、毎年ほぼ同じ割合となつていきます。実は、昨年度の定点引き取り数が県内で最も多かったのが庄原市です。引き取りに出されるのは野良猫が一番多いですが、飼い犬・飼い猫が20%近くにのぼります。

センターでは、引き取りした犬や猫は、できる限り次の飼い主を見つけて譲渡するよう努めています。数が多くなかなか譲渡は進みません。飼い主が見つからない場合は、やむなく殺処分されているのです。その数は、引き取られたうちの約85%、3682匹にのぼり、毎日10匹余りの命が消えていることとなります。

「犬・猫をゴミと同じような感覚で出してもらいたくありません。引き取りに出す前に、少し立ち止まって本当にそれでいいのか考えてみてほしい」と話すのは指導課長の富永健さん。その小さな命を見つめてほしいと訴えます。

問題は人間の側にある

飼えなくなった理由には「か

特集 命を見つめて

犬や猫などのペットを飼っている家庭は多くあります。そうしたなか、家族の一員として一生を全うするペットがいる一方で、捨てられてしまうペットも多くいる現実があります。今回は、そこに目を向けてみたいと思います。

環境政策課 ☎0824-72-1398

飼えなくなった理由には「かな犬・猫を増やさないために、動物愛護教室や各種相談業務、動物の正しい飼い方の指導などの啓発活動に力を入れています。引き取った犬の飼育希望者には事前に必ず飼育講習会に参加してもらい、誓

不幸の連鎖を断つ取り組み

センターではこうした不幸な犬・猫を増やさないために、動物愛護教室や各種相談業務、動物の正しい飼い方の指導などの啓発活動に力を入れています。引き取った犬の飼育希望者には事前に必ず飼育講習会に参加してもらい、誓



広島県動物愛護センター 指導課長 富永 健さん

わいなくなつた」「言うことを聞かない」「子を産んで面倒みきれない」といったものから、「自身が高齢で散歩ができなくなつた」「一人暮らしで入院しなくてはならなくなつた」といったものなど、さまざまありますが、いずれにしても人間側の勝手な都合です。

野良犬・野良猫も元は捨てられた飼い犬・飼い猫です。無責任な餌やりも数を増やす原因になつていきます。

富永さんは「飼うと決めたら飼い主としての責任を最後まで全うしてほしい」と話し、野良犬・野良猫に関しても「かわいそう」といって餌を与える行為は、不幸な犬猫を増やします。餌を与えるならトイレの管理なども行い、最後まで責任を持つてもらいたい」と言葉を強くします。

犬・猫に関する住民同士のトラブルが県内でも問題となるなか、現在、尾道市向島町で対策協議会をつくり、地域住民同士で解決策を図る取り組みをモデル的に進めています。「今後はこうした取り組みが重要だと考えています。住民の意識が高まり、自分たちの問題として取り組んでもらえるよう、住民トラブルの解決手法として示していきたい」と話しています。

少子化、高齢化といった社会的な要因などから、ペットに癒やしや生活への潤いを求めて飼い始める人も少なくありません。しかし、いざ飼い始めてみると「懐かない」「かわいかったけど、大きくなってかわいなくなつた」「子どもを産んで増えた」などという理由で、いとも簡単に飼うことを放棄してしまう飼い主がいることも事実です。

こうして捨てられた犬・猫が野良犬・野良猫となり引き起こされた、鳴き声や糞尿、臭いなどによるトラブルが全国的に起きています。本市でも実際に起きていて、苦情や相談も多く寄せられています。なぜ、こうしたことが起きるのでしょうか。

皆さんは、毎月2回市内2カ所で広島県動物愛護センターによる犬・猫の引き取りが行われていることをご存知でしょうか。

定点引き取りと呼ばれるこの制度は、野良犬・野良猫による被害が多発していた時代に、そうした犬・猫を引き取ることで、地域住民の安全確保と生活環境の保全に貢献してきました。

しかし、この制度は本年度末をもって終了します。この背景には、同制度が時間と場所を定めて運搬車で引き取りに回る方法から、「犬・猫をこみのように収集するシステム」として、動物愛護の精神に反

現実を知ってくださいー

するという声の高まりがあります。安易な引き取りを助長する制度とも指摘されていたことから、段階的に規模が縮小されてきました。時代にもそぐわないものとなつていくため、こういった流れを受け廃止されることになりました。(廃止までの引き取り日程は27ページに記載)

飼われなくなった犬・猫の行く末

殺処分という現実

4308匹。これは昨年度に広島県動物愛護センターに引き取られた犬・猫の数です。



広島県動物愛護センター

住所：三原市本郷町南方8915-2
問い合わせ：☎0848-86-6511
昭和55年設立。動物愛護精神の普及、啓発を図り、狂犬病の予防、危険動物による危害防止など「動物の愛護管理行政」を担う



処分を待つ犬・猫が待機する収容室。中は薄暗く、重々しい。



別室にある操作盤で、殺処分が行われる。



犬・猫は収容室から通路を通り、ドリームボックスと呼ばれるこの処分機の中に追い込まれる。入り口が閉じた後、炭酸ガスで殺処分される。死亡確認後、焼却炉に運ばれ、焼かれる。



牧原さんご家族。左から真吾さん、寛汰くん、愛依さん、トト、仁美さん 〓高野町

捨てられていた子犬に愛情を注ぐ



雪が舞う中、元気に遊ぶトト



大谷京子さんと愛犬きなこ 〓西本町



ショッピングセンターで行われた写真展の様子

写真展を開催し命の尊さを伝える

少しでも現状を知ってほしい

大谷京子さんも、そういった思いを持ち続けている方の一人。「不幸な犬が絶えない現実を多くの人に知ってもらいたい、そういう犬を少しでも減らしたい」と、写真展「みんな同じ命だから」を開催してきました。

どういふ運命をたどるのか写真とともにメッセージを添えて紹介。愛される犬がいる一方で、殺処分される犬がいる現状を伝え、「命」をテーマに問いかけています。

ノートには、写真展を見た多くの人が共感と激励のメッセージが寄せられました。「お母さんが展示の内容を子どもに丁寧に伝えてくれている光景や、観ていただいた方の思いにふれ、やってよかったと思っています」。

ただ、こうして続けてきた写真展ですが、母親の介護などもあり、しばらく充電期間を置くことを決めた大谷さん。

トトとの出会い

愛犬「トト」が牧原家にやってきたのは、昨年11月のこと。出会いは偶然でした。小学6年生だった愛依さん

はその日、高野中学校の文化祭に行こうと自転車を走らせ、市役所高野支所の前を通りかかりました。「犬の声がするなあ」と気になり、声がする支所の裏手に行ってみると、捨てられていた5匹の子犬が保護されていました。(その時の写真が2ページ。左がトト)小さな体を震わせていて、本当にかわいそうだった」と当時を振り返ります。

子ども頃の頃犬を飼っていたことがあり、「軽い気持ちで飼えるほど、簡単ではない」という思いを持っていました。

トトを救った思いの強さ

愛依さんは文化祭に行く予定を取りやめ、すぐに帰宅し家族に相談しました。毎日朝晩散歩すること、餌やりもき

ちんとすることなど約束事を決め、必ず最後まで責任を持つて面倒を見ることを条件に、真吾さんは犬を飼うことを許しました。

翌日、一番弱っていた子犬を早速自宅に連れて帰り、「トト」と名付けました。「すぐくうれしかった」と愛依さん。あれから1年3カ月。弱っていたトトも元氣を取り戻し、牧原家の愛情を受け大きく成長。家族の一員として暮らしています。

散歩は愛依さん、餌やりは弟の寛汰くんが主に担当。あの日決めた約束は、今もきちんと守っています。

「動物を飼うのであれば最後まで面倒を見ないといけない。そうした自覚がない人は飼うべきでないし、大人になったときに責任を持たない人間になってしまふのでは」と真吾さん。自覚と責任を持ってトトを世話する2人の姿に目を細めています。

しつけのポイントはしっかり褒めること

しつけは人が愛犬と一緒に楽しく暮らしていくためにとても有効な手段です。人間との社会生活に支障を来さない方法を教えることで、犬との生活はとても快適になり、人も犬も楽しい時間を過ごすことができます。

「吠えたい」、「食べたい」などの本能的な欲求を抑えるトレーニングをして、家庭犬としてのマナーやルールを身につかせます。人を見たら吠える、飛びつく、噛みつくなどの問題行動が深刻になってからだと矯正するのに時間やお金がかかってしまうので、できるだけ早めに取り組むことが大切です。

きちんとしつけられている犬は、災害が

あったときも、ハウスに入れて一緒に避難所へ避難できたり、飼い主とはぐれても保護してもらえたりする可能性が上がります。

問題行動を克服する大切なポイントは、その好ましくない行動の原因を考え、その行動が出る前に褒めることです。飼い主が良いと思った行動は、ゆっくりと「そう、いい子」と言ってしっかり褒めてください。反対に好ましくない行動には、短く「あっ!」、「ちがう!」、「いけない!」という言葉を使います。褒められて正しい行動を理解した犬は、「いい子」と「ちがう」と言われた時の行動の違いを理解します。

「命令に従え」という従属的な関係でなく、共に暮らす仲間として関わりたい。



ドッグトレーナー 津田公子さん

D.I.N.G.O. インストラクター・トレーナー(プロ育成認定資格者)。2005年から兵庫県西宮市で室内トレーニングジムを開設。プロ育成、問題行動矯正、タレント犬養成、ドッグダンス指導を得意とする。2014年にクリックトレーニングセンターを開設し、鳥、猫その他の動物のトレーニングを開始。保護犬の里親を推進し、これまでに4頭引き取る。 ※D.I.N.G.O.…科学的な根拠に基づいた効果的かつ人道的なトレーニングを推奨。しつけ教室の開催やドッグトレーナーの育成と認定を行っている。

不幸な犬・猫を生まないために私たちができること

●犬の登録・狂犬病予防注射を 狂犬病予防法により飼い主には犬を市役所に登録し、毎年狂犬病予防接種を受けさせる義務があります。首輪に鑑札と注射済票を必ずつけましょう。

●不妊・去勢手術を

犬・猫は本能のままに子犬・子猫を生みます。体に傷がつくのは、かわいそうかもしれませんが、生まれた子を捨てたり、引き取りに出したりする方がよっぽどかわいそうです。手術によって攻撃性の低下、病気の予防、発情のストレスがなくなるなどの効果が見込めます。

●いなくなったら必ず届け出を

犬は帰巣本能があるとされますが、全ての犬がそうではありません。放浪しているうちに虐待を受けたり、交通事故にあたりします。保護されても飼い主が現れなければ動物愛護センターに收容されてしまいます。いなくなったらすぐに市、警察署、愛護センターに届け出をし、全力で探してあげてください。愛犬・愛猫の命を守るには飼い主だけです。

あとがき

定時定点引き取りが3月末日で終了することによって、野良犬や野良猫が増えるという懸念があります。しかし、ここにご紹介したように、不幸な犬・猫を生んでいるのは飼う側の人間です。こうした犬猫を減らすには、私たちの意識を変えなければ、根本的な解決にならないと思います。

今回、広島県動物愛護センターを取材し、殺処分

場に足を踏み入れましたが、収容室で待機する子犬・子猫たちの悲しそうな目が脳裏から離れません。センターの通常の引き取り業務は継続されますが、引き取りに出される犬・猫が0になることを願ってやみません。

皆さんはどう思われますか。ご意見、ご感想をお待ちしています。